

2018 大会テクニカルレポート
大会名 TOMAS CUP 第34回東京都選抜少年サッカー大会

日時	平成30年6月30日(土)7月1日(日)	会場	稲城市中央公園総合グラウンド 稲城長峰ヴェルディフィールド
----	----------------------	----	----------------------------------

東京都少年サッカー連盟 委員長 吉實 雄二
技術指導部長 井上 雅志
文責 技術指導部 安藤 力也

結果概要

優勝	第6ブロック	準優勝	第11ブロック	3位	第4ブロック
4位	第9ブロック	敢闘リーグ1位	第7ブロック	敢闘リーグ2位	第5ブロック

講評 東京都少年サッカー連盟技術指導部が目指す理想の選手育成のために～Tokyo U-12'way～

①観て判断する

登録総数800チームを超える都内各ブロックから選抜された選手だけに、on the ballにおける技能レベルは高く、各個人のよさを発揮した素晴らしいプレーが見られた。off the ballでの周りを見る習慣は以前に比較して改善されてきたが、十分についていないため、状況に応じたプレーの選択ができないことがあった。少年期である今こそ、「Good habit」=「よい習慣」、つまり「常に周りの状況を把握するために観ること」を習慣化させるための働きかけが今後も必要であると強く感じた。また、細部の技術レベル、例えばキックの正確性やパススピード等は更に向上させていかななくてはならないと感じた。

②判断を伴ったテクニックの発揮をする(ファーストタッチの質・プレーの選択)

off the ballで観ることができているからこそ、判断を伴ったテクニックが発揮される。よい準備から状況を把握した上でプレーする場面では、スペースを意識したパスワークやファーストタッチができていた。サイドコーチングにおいても、「身体の向きは？」「準備は？」といった働きかけが見られ、よい判断へとつながっていたチームもあった。一方で、ボールを受ける前により準備ができず、ボールを受けてからプレーを選択することで、ボールを奪われたり有効な攻撃へとつなげられなかったりする場面も多く見られた。

③攻守に関わり続ける

酷暑の中での試合であったが、どのチームも積極的に攻守に関わろうとする姿勢が見られた。開会式で「積極的にボールを奪う」ことを大会のテーマとして提示したことを受け、ファーストDFのアプローチを含めた「厳しい守備」が多くチームに見られた。特に決勝戦及び3位決定戦では、ファーストDFの積極的な守備により、セカンドDF以降がインターセプトをねらった意図的な守備、ボールを奪うための守備が好成績につながったとも言える。一方で、ボールを奪う意識が低く、何となく間合いをつめているだけの守備や、よいアプローチをしたもののボールを動かされた後に間合いを開けて前を向かせてしまったり、自由にさせてしまったりする守備も、試合によっては多く見られた。今後も個人及びチーム全体が「ボールを奪う」意識を高め、日常へとつなげていきたい。攻撃に関しては、それぞれの選手がストロングポイントを発揮したよいプレーが見られた。特に強いシュートをねらいをもってうつ場面が多くあり、シュート力の高まりが感じられた。しかし、シュートにつながるようなねらいをもったポジションは単発的で、特にGKを含めたビルドアップに関しては課題が残った。GKがフィールドプレーヤーの一人として積極的にかかわるために、サッカーそのものの理解や基礎的な技術の向上をさらに高めていくことが必要だと感じた。

④積極的にコミュニケーションできる

これまで同様、サイドコーチによる指示が減少してきたことから、チーム内で選手同士が意思を伝え合う声かけ、コーチングは見られたものの、十分とは言えない。味方の判断を助け、チームが主導権を握るためにも、選手間の情報伝達意識をさらに高めていきたい。

⑤リスペクトの心をもてる

審判の判定に対して不服を述べるベンチや選手が見られた。東京都内の選抜選手、そしてそれを指導するブロックを代表する指導者が集うこの大会においてこのような場面が見られたことは残念である。サッカーファミリーとして、支える全ての人たちへの感謝、リスペクトの心を再度確認することを望む。

総評

真夏を思わせる厳しい暑さの中で行われた今大会は、東京都内800チームを超える中から選抜された選手が参加した大会にふさわしく、レベルが高く、また、2018ワールドカップロシア大会開催中に行われただけに選手のモチベーションは非常に高く、白熱した試合が展開された。全体的な技術レベル、試合内容も総じて向上していることが感じられ、これまで東京都少年サッカー連盟技術指導部が発信してきた「Tokyo U-12'way」が指導者の皆様の御理解・御協力の下、浸透してきたもの捉えることができる。指導者の皆様に改めて感謝申し上げたい。特にベスト4に残った4チームは、攻守にハードワークする姿勢、ボールを奪うための意図的な守備、そして選手個々の長所を生ずるための積極的な姿勢は素晴らしかった。各チームとも新年度スタート間もない中で迎えた大会であることから、今後に向け、さらに飛躍する可能性があることを多く感じた2日間であった。各選手、各ブロックが今大会を通じて課題を発見し、その課題解決に向けて日常からトレーニングを積み、さらにステップアップし、それが東京都の少年サッカー全体のレベルアップにつながることを切に願う。